



広間の中心には、ハンドメイドで製作された薪ストーブが置かれている。シンプルな仕組みの薪ストーブだが、この家と共に家族の心を暖めてくれている。



中庭からの夕景。広間から漏れ出す灯りはとても暖かで、1日の疲れを癒してくれる。電球タイプの照明を必要な場所に配置し、明るすぎず暗すぎず、全体のバランスをとっている。



広間から中庭を望む。大きな開口と合わせて天井の高さも十分に確保したため、のびのびとした印象の空間になった。合わせて、6尺ピッチで組まれた構造体が清々しさを現している。



敷地南側からの外観。欄間窓と合わせて大きな開口が印象的な外観。たくさんの自然に囲まれている立地ならではの開放プラン。

完成現場報告 袋井市

『青の家』

写真・文 山崎健治

4月に入り、満開の桜をあちらこちらで見かけるようになりました。いよいよ春本番！一年の中でもっとも過ごしやすく、また、一年の始まりの季節として、これから始まる新生活に“ワクワク”されている方も多いのではないのでしょうか。そんな季節の中、昨年の11月に完成した“青の家”のSさんも、新居での生活の準備が整い、新しい土地での暮らしが本格的にスタートしました。

満開の桜が窓越しに広がる。
まるで春を切り取った一枚の絵のようだ。

この土地だから出来た 開放プラン。

この土地なら自分たちのライフスタイルに合った暮らしがごく、子育ての面からも、周囲の自然環境の恩恵を受けのびのびと出来そうだという事で、この地に暮らすことを決めたといいました。

周辺の大きな木々の中には桜の木も数本あり、2月終わり頃から順番に咲き始め、小鳥たちのさえずりと共に春を楽しませてくれています。撮影に伺った3月中旬には、広間の窓越しに満開の桜が見られ、まるで春を切り取った一枚の絵のような風景を見せてくれました。

“青の家”と名付けたSさんの家は、奥さんのご実家と隣接している事から、家と家の距離や、適度なつながりを考え計画していきました。また、今回の土地が実家の南側に位置していることから、実家への採光や通風、景観を妨げないように、平屋的な建物として計画され、屋根裏のスペースを利用して、子供部屋などに使えるフリースペースを2階に設けました。

家の中でもっとも特徴的なのは、約半分の面積を占めている広間+キッチンで、20帖の面積に加えて、吹き抜けや大きな窓も配置した為、

のびのびとした暮らし。

Sさんご家族は、もともとご主人の生まれ育った家をご両親から譲り受けて暮らされていましたが、日当たりや周辺環境の問題から、もっとのびのびした土地で子供を育てたいと考え、袋井市の少し小高い土地に新居を計画されました。実は、この土地は奥さんの生まれ育った家に隣接している土地で、周囲を大きな木々に囲まれたとても穏やかな場所です。

部屋の中に居ても屋外に居るような？何とも不思議な開放感を感じる空間です。この家の南側に建物は無く、大きな木々に囲まれたこの土地だから出来たプランだと思います。

開放感と合わせて、この家の木組みは6尺(1.82m)を基準に造られている為、とても素直な木の家だと感じると思います。必要な箇所だけに柱や梁があり、無理・無駄を削ぎ落とした清潔感が漂っています。ですが、それらの木組みを成立させている接合部などは、伝統的な大工の造りを主体にして出来上がったのも大きな特徴です。“職人の仕事が好きだから、あえてその仕事が見えるようにして欲しい。”打ち合わせの中で、Sさんが話してくれたのを覚えています。

小高い土地にひっそりと建っているS邸。平屋のように見える外観だが、内部空間は意外と大きい。



造る

人の手が造り出す魅力。

現代では機械化が進み、身の周りのほとんどの物が既製品として作られています。精度の高いものを安く大量に作る為には当然必要な事ですが、何処か味気なく、愛着が持てないのも事実だと思います。それに対し、人の手で造られたものは日に日に愛着のあるものになっていきます。この気持ちの中には、造ってくれた人への感謝の気持ちや、その技術への尊敬の気持ちがあるからなのではないでしょうか。人の手で造られたモノは単に物にあらず、人と人をつ結びつける魅力があるのです。

1：オートバイの部屋の入口に設けられた巾 1.5mの大きな板戸。外壁の材料を使って建具屋が製作した。

2：上記板戸の内鍵。サル錠と呼ばれる、木で作られたシンプルな仕組みで出来ている。

3：手で刻まれた大黒柱。仕口と呼ばれる接合部がしっかりと作られている。

4：ここらばスクールで行われた大工の道具箱作りに参加されたSさん。とっても器用で驚いた！

5：Sさんが自作した玄関照明。船舶用の照明をアレンジして取り付け出来るように作ってくれた。

6：木で作られた床の通気口。従来金属製の物を使っていたが、若手大工の修行を含めて作り始めた。

7：S邸隣地に咲く、少し早咲きの桜。見ているだけで心が洗われる。

8：玄関框に使われた大黒柱の相棒で作られたちゃぶ台。HWF久留さんの作品です。

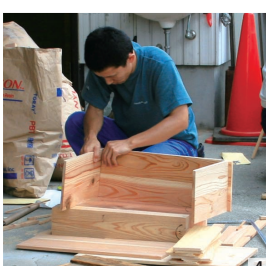
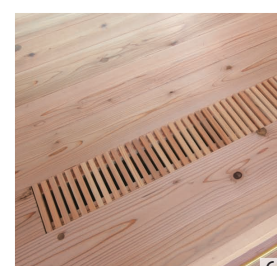
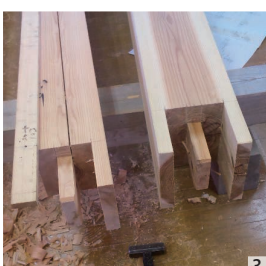
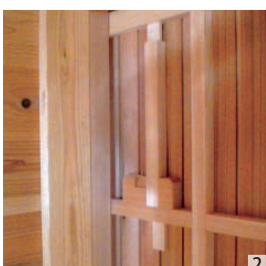
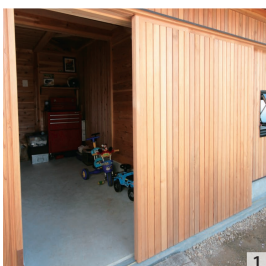
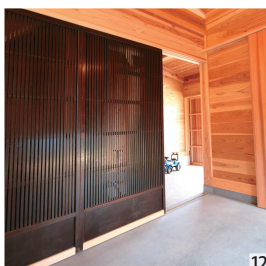
9：大工と建具屋で作られたキッチン。ステンレスフードを含め、ほぼ手造りで出来ている。

10：ストーブ工房山林舎製作のシェーカー型ストーブ。シンプルな仕組みだが暖房能力は高い。

11：枠で作られてたガラス戸と網戸。レールやバッキンなどを工夫して雨や風も凌ぐ事が出来る。

12：おじいちゃんの家に使われていた格子戸をオートバイ部屋と玄関の間に再利用した。おじいちゃんも喜んでいるかな？

13：漆喰で一面を塗られた広間の壁。大きい面積では、左官の技術が問われる仕事。とても綺麗に仕上がっている。



北側外観の夕景。玄関と並んでオートバイ部屋が隣接している。バイクの他にも道具や小物が置ける広さがあり、男としてはとても羨ましい空間だ。



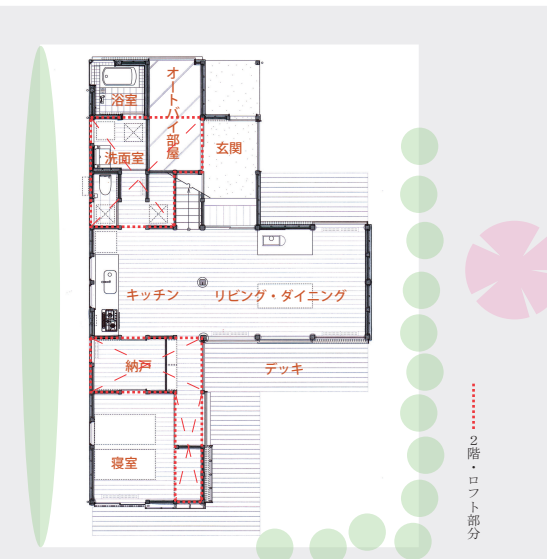
広間入口から玄関を望む。おじいちゃんの家に使われていた格子戸と大黒柱が使われている。大黒柱はそのまの色や状態で使われ、玄関框として蘇った。



右：薪ストーブの火を囲むSさんご家族。火は暮らしの中心で、家族を惹きつける魅力があり、夜のひとときを楽しませてくれる。



左：東側隣地からの外観。高さを低く抑えられた外観は、北側に隣接する奥さんの実家への影響も考えられている。



仕様内容

設計者	設備	内部仕上	外部仕上	家族構成	敷地面積	延べ床面積	構造
山崎健治 有限会社（三）木造建築研究所	浴室 キッチン・洗面・オリジナル浴槽	浴室 床板 壁 天井 内部建具 タモ材目・オリジナル青森ヒバ板張り+サリモタイル貼	外壁 外部建具 杉本実板張り・化粧野地板現し 落し込み板現し+漆喰 杉本製建具（ベアガラス）	家族3人	82.72㎡	110.0㎡	2階建て 板倉構造

みはもちろんの事、その手で造られた仕事（継ぎ手や仕口）を隠さず現していくことや、建具屋の伝統的な手法で造られた框戸など、職人の手で造り出されている物に関心を寄せていただき、私たち造り手としても、とてもやりがいのある仕事をさせていただきました。

取材に伺った時、奥さんが「この家に暮らして焦らなくなった。ゆとりをもてるようになったのかな？」と話されていました。家の周りを囲む大きな木々に守られ、木と人の手で造り出されたこの家には、ゆとりとした時が流れているのだらう！そして、その時間を家族と共に楽しむ暮らしが、Sさんの求めた暮らし方なのだろうと思いました。じっくりと時間を掛け、新しい暮らしを築き上げていって欲しいと思いました。

Sさんの求めた暮らしのかたち。



この家では、大工の手仕事の他、職人の技術を随所に見ることが出来ます。建具屋の製作した大きな松の框戸や、左官屋の塗ったの漆喰壁や土間など、どれもひと手間かけられた造りで、職人の技術を肌で感じるこの出来る家になったと思います。中でも、Sさんのおじいちゃんの家で使われていた格子の古建具や、大黒柱を使った上がり框を見ると、職人の手を通して、技術が脈々と培われてきたことがよく分かります。

Sさんとの家造りを進める中で印象的だったのは、Sさんご夫婦には、「住みたい家が明確に見えている」と感じた事でした。通常、打合せをしていく中で、おのずと、高機能で便利なもの、また、手間より物自体を選びがちですが、こだわる「家の核」を決め、メリハリをしっかりとつけていくことができた家造りだったと思います。

特にSさんが求めたものは、人の手でつくりあげたものを大切にしていきたいという気持ち。大工の手刻